

高橋 大樹

希望

移住・定住に向けた本市の取組

問 人口減少が加速する本市において、移住だけではなく定住支援に向けた取組が重要な課題である。相談窓口の設置の効果、移住希望者への情報発信は充実しているか。

答 相談窓口「のしろ暮らし」をイオンタウン能代へ開設し、気軽に相談できる環境を整えたことにより相談件数が大幅に増加しており、一定の効果があるものと認識している。また、移住定住ガイドブックの配布や移住フェア、SNS発信等により地域の暮らしや魅力を継続的に発信しており、移住・定住の促進につながっているものと考えている。

中心市街地・商店街の活性化

問 中心市街地・商店街は本市の顔であり、その再生は地域経済の活性化及び市民生活の向上に直結する課題である。空き店舗対策、出店促進、魅力向上に向け、どのような取組をしているのか。

答 のしろの商い支援補助金による商店街等への支援のほか、次世代商店主チャレンジ事業や空き店舗リノベーション補助金による中心市街地等の出店・開業支援、まちの魅力発見発掘発信事業によるポータルサイトを活用した情報発信、地域おこし協力隊や交流拠点CocoWa運営・イベント支援など、多角的なアプローチにより活性化に取り組んでいる。

その他の質問事項

- 人口減少・少子高齢化による本市の取組
- 恋文のまちづくり事業の進捗状況
- ナフサ供給不足が地域経済に及ぼす影響

渡邊 正人

協創のしろ

鍋谷市長の掲げる新しい時代の市政運営

問 市長は市議会議員時代や市長選挙を通じて、高校魅力化への大きな期待と提言を図ってこられたが、人口減少と少子高齢化が進む中で、高校魅力化推進事業に期待することは何か。

答 市外への生徒流出や高校の定員割れが続くことは、高校の存続だけでなく、将来の地域社会や経済にも大きな影響を及ぼすことから、地域全体の課題として認識している。学校や地域、企業等が一体となって高校魅力化を進め、特徴的な地域資源をうまく取り入れることで、郷土愛を育み、将来能代に戻ってきたいと思う若者が増えることを期待する。

児童生徒の熱中症対策の考え方は

問 熱中症は重症化すると命に関わる危険な状態になる。子どもは体温調節機能が十分発達していないこともあり、熱中症になりやすいため注意が必要となるが、児童生徒の熱中症への対策は。

答 児童生徒の健康と安全を第一に考え、教室等へのエアコン設置のほか、校内に熱中症指数計を整備し、危険性が高い場合には授業や部活動、外遊び等の活動を制限している。また、チェックシートを活用した指導や、熱中症の予防が特に必要な際は、緊急指示を发出し、注意喚起を行うなど、学校教育活動における熱中症事故の防止に努めている。

その他の質問事項

- 市長が最優先に取り組む施策は
- 市防災アプリが有効活用されるためには
- 高齢者や要支援者の熱中症対策の考え方

後藤 翔子

平政会

企業誘致における能代市の強みは何か

問 企業誘致にあたり、オフィス料は東京都や東北を代表する宮城県と比較しても安価であるが、距離の遠さや人材確保の難しさが能代市にはある。そのうえでどのような点を強みとして誘致するか。

答 国内最大級の風力発電をはじめとする豊富な再生可能エネルギー電力のほか、JAXA能代口ケット実験場や県立大学木材高度加工研究所等の大学・研究機関との連携基盤、能代港と高速道路による物流網が強みと考える。また、新産業団地ではGX戦略地域の最終選定に向け取り組んでおり、独自の強みをアピールして企業誘致を進めていきたい。

若者には選ばれる希望溢れる能代

問 アンコンシヤス・バイアスや性別による差別・偏見等をどの世代・性別が、いつ・どこで経験しているか、より具体的な実態に迫る定量的調査に取り組む考えは。

答 「若者井戸端会議」や男女共同参画推進講座を通じて、固定的な性別役割意識やアンコンシヤス・バイアスに関する定量的な実態把握の機会を設けてきた。現在、「若者・女性に選ばれる地域づくり」を旨とする「のしろRe・創チーム」で部局横断的に取り組んでおり、定量的調査についても先進事例等を参考にして実施につなげていきたいと考えている。

その他の質問事項

- 鍋谷市政のオリジナリティは何か
- 企業誘致にかかる地場企業への支援策は
- 検診無料クーポン券の在り方